

大学・地域共創プラットフォーム香川

令和4年度 第5回 地域活性化部会

令和4年12月13日（火）

- | | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | 観光 W G 報告 | P 1 |
| 2 | 地域 D X W G 報告 | P 2 |
| 3 | 意見交換会(R 4.11.7)報告 | P 3 |
| 4 | 部会構成員アンケート結果（参考） | P 4 |
| 5 | R 5 年度事業計画（案） | P 5 |
| 6 | その他 | |

1 観光 WG 報告

『みんなでつくる香川観光ミーティング（大学生のおすすめスポット編）』チーム

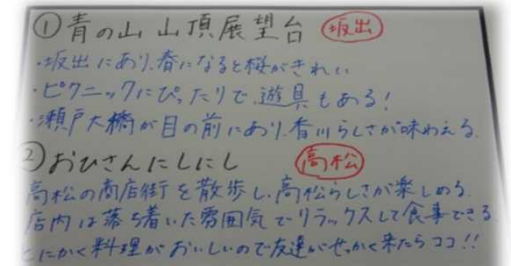
日 時：令和4年12月1日（木）16:20～17:50

場 所：香川大学幸町キャンパス DRI棟多目的室12

出 席：大学生12名, 見学者2名, 関係者5名 計19名

内 容：若者の目をひく香川の魅力的な場所を洗い出すため、

大学生が県外の友人におすすめするスポットをテーマに話し合い、発表。



今後の予定：若者が注目する香川の魅力的なスポットを題材にSNSで情報発信するため、

大学生と取材、記事作成、SNS投稿を予定。

12月 取材に向けたミーティング

1～2月 大学生とおすすめスポットの取材

年度内 SNS等による情報発信

今後 地域・テーマを広げて観光企画実施を検討、

県民によるSNS関係発信の試み など



2 地域DX WG報告

① 日 時：令和4年11月11日（金）17:00～17:45

場 所：善通寺市 協力事業者候補・株式会社A（農業）

参加者：株式会社O代表者, 香川大学・原委員ほか学生2名, 事務局2名 計6名

内 容：地域DX概要等説明、協力依頼

課 題：「“組織的な農業”を目指しているが、作業課題も多く、
また、農業は勘や経験に頼る部分が多く残っている。」



② 日 時：令和4年11月16日（水）15:15～16:00

場 所：丸亀市 協力事業者候補・株式会社B（製造業）

参加者：株式会社K代表者, 香川大学・原委員ほか学生2名, 事務局2名 計6名

内 容：地域DX概要等説明、協力依頼

課 題：「在庫管理は頭を悩ませている。デジタル化は難しいことは出来ていない。」
「DXのコストが高くなると困る。」

今後の予定：要件定義が重要であるため、協力事業者と大学が一緒に現状把握を行い、
どこをDXするのかなどについて協議。→アプリの共同開発に着手

3 意見交換会(R4.11.7)報告

大学・地域共創プラットフォーム香川 第4回地域活性化部会（意見交換会）

日 時：令和4年11月7日（月）15:30～17:00

場 所：県庁北館4階404会議室

出 席：大学等5名、中小企業家同友会1名、市町10名、県3名、PF事務局2名 計21名

内 容：「これまでの振り返り、進め方」及び「今後の取組み（案）」をテーマにグループワーク

これまでの振り返り	自治体の個別課題等は数えきれない。共有する場合、絞る必要がある。	困りごととは色々あってきりが無い。一つでも取り組むのがいいが何をやるかが問題。	各市町では様々な良い取組みをしており、優良事例の拾い出しと共有が大事。	今後の取組み	学生による情報発信、コンテストは効果が期待できる。	学生が楽しく集まってもらえるようなところから始め、若者定着になればいい。	中学生や高校生に地域の課題を知ってもらうことは重要。
今あるテーマをしっかりと掘り下げていくことが重要。	アイデアソンでアイデアが出たものに優先的に取り組めばいい。	長期的な取組と目下の課題への取組両方がないと協議だけでは続かない。	アイデアソンは続けたらいい。参加職員にも好評でそれ自体人材育成である。	同友会のバリエーション（三木高校等）は他地域でも実施していきたい。	地域の産学官関係者のマッチング・交流会は意味がある。	必要な時に企業側が大学側に聞きに行ける環境・関係づくりが大事。	大学教員等の専門が不明→相互に知る関係性構築の機会が必要。
事業効果の測定も大事だが、趣旨を説明して構成員の懇親を深めることも重要。	短期的に効果や結果を求めるのではなく、長期的に考えないといけない。	担当者レベルで情報共有し、会の開催は節目で良い。	若者の意見を重視するのはいいこと。	社会人の初任者研修を大学の講師が行うというのはどうか。	自治体ごとに課題がバラバラ。マッチングが大事。	社会人向け講座は受講者が高齢者ばかりで、若者の定着につながるとは考えにくい。	人口減少と上手く付き合っていく方法を考えていかないといけない。
PFとして何を目標していくのか、まだ見えていない。				県外に出ていく人をどう呼び戻すかの観点も必要。	今までやったことをやるのは意味がない。DXとか新しい取組みをやるのがよい。	出来ることからやっていけばいいのではないかな。	

4 部会構成員アンケート結果（参考：第4回部会（R4.11.7）資料）

◆新たに（令和5年度に）取り組みたいテーマ・項目について

区分	課題等	新たな取り組み案（一部抜粋）	幹事所感
情報発信	・魅力・コンテンツ・企業等の県内外への情報発信	・学生等による観光・特産品・イベント体験と投稿拡散 ・空海弘法大師1250年などのイベント（学生・企業連携）の案内	→既存テーマの観光WG等で掘り下げ可能か？
講座開催、交流会・イベント開催、郷土愛醸成	・地域・企業を学ぶ機会 ・Uターン促進 ・知らないの解消 ・人脈形成	・大学教員等による社会人向け講座（大学→地域・企業へ） ・大学生・高校生への「地域学」「県内企業学」の講座開講、啓発（地域・企業→大学・高校へ） ・県内企業、大学研究者、自治体職員らを集めた交流会、マッチング会 ・県内中小企業と学生の協働による小規模イベント	→既存取組みの洗い出しからか？ →教委、経済界等との調整、他部会と連携必要 →項目の特化（絞る）必要
連携強化、関係構築	・個別課題・懸案事項の共有 ・外部人材の活用 ・広域連携	・個別課題・懸案事項の共有、解決に向けた自治体⇔大学等マッチング ・課題に対応できる外部専門人材データベースの構築、人材の有効活用 ・広域連携課題の掘り起し、連携調整等のコーディネート	→困り事のリスト化からか？ ⇒活用可能な専門人材のリスト化？ →コーディネート役必要

◆地域活性化部会での取り組み方・進め方について

・時間的な制約等がある中、既にあるテーマについて、議論、調査等しながら掘り下げていく方がよい。	→同テーマの継続
・複数回開催される部会は困難な場合があり、担当者レベルの調整、節目の部会開催を考えてもらいたい。	→WG、チームでの対応
・成果も大事だが、アイデアソンのように多様な関係者が集まり、話し合い、アイデアを出し合う機会に意義がある。	→議論の場重要

5 R 5 年度事業計画（案）

取 組	内 容
①学生主体の観光企画・ 情報発信等	・大学生による取材、SNS等による情報発信等（エリアの拡充等） ・学生企画ツアーの具体化と効果調査★
②県内中小企業を対象とした 地域DXの推進	・中小企業の課題を解決するアプリの共同開発、横展開等
③関係人口・ 交流人口の拡大	・関係案内所の先進事例について勉強会等を実施 ・弘法大師・空海1250年イベントを活用した地元学生、企業とイベント参加者の交流★
④二ーズ調査	・課題解決に向けた二ーズ調査の実施（他部会と連携）
⑤産学官連携交流会	・県内企業と大学、高校、自治体の接点となる産学官連携の交流会等の実施★
⑥その他、構成員が企画・提案、 実証・実践する取組み	・PFの枠組みを活用し構成員が企画・提案、実証・実践する、若者の県内定着に資する取組みを支援

※1 ★は新規。

※2 R 5 年度予算計上予定額：他部会や事務局との調整により設定。